

## 市町村研修担当者に聴く

### ～第14回～



平成28年5月1日号

研修センターでは、「市町村自らの手による自らの研修実施」という基本理念のもと、各種研修機会の提供のほか、研修情報の提供、市町村等の自主的な取り組みについて積極的な支援を行っていきたくと考えています。

そこで、市町村等における実際の取り組みや研修業務に対する思いについて紹介をします。

関市役所 吉田 将克 さん

#### ◎関市が独自で行っている研修はどんなものがありますか？

今年度はメンタルヘルス研修、ファシリテーション研修、勤務評定者研修、管理職研修、倫理研修などを実施しました。

新しく始めたものとして女性職員キャリアアップ応援事業「ジョシ☆ケン」という女性職員向け研修があります。「ジョシ☆ケン」は講演とキャリアアップ研修の2部構成となっており、講演

には岐阜県の子ども女性局長、関市の商業施設マーゴを運営する株式会社サン・ストラッセの総務部長(ともに女性)を講師としてお招きし、自身の経験を元にお話をいただきました。好評だったこともあり、今後も続けていきたいと考えています。

また、育児休業の取得者向けの研修「イク☆ケン」を9月と2月に行いました。現在20名弱の育児休業取得者がいますが、職員としてのモチベーションを保つことや、円滑な職場復帰をめざして、市役所内業務についての情報提供などを行います。2月は新年度予算、新事業、制度の紹介についての研修を行いました。育休という職員のための制度がせつかくありますので、上手く活用してもらいたいと思っています。

関市ではいくつかの研修名に「〇〇☆ケン」という名称をつけていますが、これは尾関健治市長(略してオゼ☆ケン)をもじって〇〇☆ケンという呼び方をシリーズ化しているものです。(ジシュ☆ケン【自主研修】、イク☆ケン【育児休業者研修】など)



#### ◎隣接する自治体と共同で行っている研修はありますか？

隣接する市町ではありませんが、美濃教育事務所が行う企業内家庭研修という事業でいろいろな教育メニューをもっておられるので、「イク☆ケン」の研修メニューの一つとして加えさせていただき、講義をしていただいております。

#### ◎関市人材育成基本方針には「自主研修の支援」とありますが、どんな支援を行っているのですか？

市の課題を研究したいと自主的に集まった職員が、グループで研究を進める「ジシュ☆ケン」というものを平成24年度より行っています。基本的には1年間という研究期間を設定し、自主研究を進め、発表をするのですが、この研究グループに対し、会議室や使用するパソコンの確保、資料の提供など、研究を進めるうえでの後方支援を行っています。今年度は3つのグループが活動しています。取り上げる課題の数や期間

などはグループ毎に違います。

研究の例としては、「交渉力を磨く」というテーマで研究をしたグループが、各務原市や美濃加茂市の職員を巻き込んで「貿易ゲーム」というワークショップを企画・実施しました。

また、「人間図書館」といって退職する部長を囲み、公務員人生を語ってもらう会を開催しました。人を本に見立て、経験豊富な先輩職員に話を聞き、そこから学ぼうという試みです。大変好評でしたので、これからも続けてもらえるのではと期待しています。



ご当地キャラ&グルメ祭りの様子

また、合併 10 周年の際には「ジシュ☆ケン」のグループが企画した、「ご当地キャラ&グルメ祭り」が開催されました。このように何かを企画することもあれば、パワーポイントで研究結果を発表することもあります。他の事例として、ワンストップ窓口についての研究などもあり、これまでの研究ではさまざまな成果があったと思います。

### ◎人事交流派遣事業について、こういったところに派遣を行っていますか？

JAMP(市町村アカデミー)、JIAM(全国市町村国際文化研修所)や自治大学校の3か月コース派遣のほか、総務省や他市への派遣として各務原市、美濃加茂市への派遣も行っています。また、平成27年度の8月をもって終了しましたが、(株)岐阜高島屋、(株)岐阜グランドホテル、(株)サン・ストラッセへ毎月4人程度を1か月間派遣する民間企業派遣研修を行いました。受入先企業のご理解とご協力のもと、3年目以上、係長以下の職員を対象に、顧客本位のサービスや経営感覚を学ぶことを目的に実施しました。

### ◎メンター制度を活用しているとのことですが、どのように行っているのですか？



平成26年の8月よりスタートしました。新規採用職員には全員、メンターをつけます。

メンターとなる職員には、和やかな雰囲気の中で、新規採用職員(メンティ)との面談や、電話・メールなどでのやりとりを少なくとも月2回は行っていただくようお願いをしています。

仕事の話だけではなく、仕事以外の話まで相談しているケースも聞きますし、メンティからは好意的な感想をいただいておりますので、いまのところ順調だと思います。

編集部より

お忙しい中、インタビューをお引き受けいただきありがとうございました。有志の職員が集まって行う「ジシュ☆ケン」のお話が印象的でした。日々の業務に追われながらも、行政課題解決のため、課の垣根を越えての研究が随時行われているというのは、ぜひ見習いたいと感じました。